

判定基準の無症状の抗体陰性者の存在についての 改定について

2020年7月5日

新型コロナウイルス抗体検査機利用者協議会幹事会
(略称：協議会幹事会)

協議会参加施設での検討で、無症状または軽症の新型コロナウイルス感染者の中に、従来の精密検査の判定基準では「陰性」と判定される方が、7月3日の幹事会で複数の施設から確認されました。協議会では、その正確な頻度の推定の計測を開始するとともに、判定基準に追補を加える改定を合意しましたので、ご報告します。

- (1) 7月3日の協議会幹事会で、無症状または軽症のPCR陽性の感染者における抗体値の検討を行い、複数の研究施設で通常の発症後2週間たっても正常域にとどまる患者さんがいることが確認されました。その頻度は、最大3割程度まで施設により異なり、協議会幹事会で、今後、早期に参加施設において計測、集計を開始することを確認しました。
- (2) 上記の結果を受けてIgGによる判定基準に次の追補（下線部）を加えます。

IgGで感染既往歴を診断する判定基準

- IgG 10以上 陽性
- IgG 5以上 10未満 要経過観察
- IgG 5未満 陰性

ただし無症状または発症時が明確でない軽症患者で、IgGが10以下のものが一定数存在することが判明しており、注意を必要とする。